

モダンテニス **NO.16**

MODERN TENNIS *August 1972*



アメリカの学生テニス

UNIVERSITY OF REDLANDSにて 中島 幸彦



中島幸彦選手

昭和45年全国高校シングルスに優勝、同年の全日本ジュニアではダブルスでランナース・アップとなった。

昭和45年度全日本ランキング少年シングルス第4位、ダブルス第3位。同年度全国高校ランキングシングルス第1位、ダブルス第4位。同年末、オレシボール世界ジュニア選手権に遠征。

昭和46年立教高校から立教大学に進学し、昨年の全日本学生選手権終了後庭球部在籍のまま渡米し、カリフォルニアのレッドランズ大学でテニスの腕を磨いている。

レッドランズ大学では経済学部1年生として、入学、この6月10日から8月末までの長い夏休み中はテニス旅行ですごすとのことです。なお帰国は来春の子定。

NAIAリーグ(538校で構成)に連勝

先日行なわれたNAIA DISTRICTトーナメントを最後に、苦しくも楽しかったテニスシーズンはあっという間に終り、それと同時に、アメリカ生活9ヶ月が過ぎてしまいました。

現在私は、ロスアンゼルスとパームスプリングスの丁度中間に所在する UNIVERSITY OF REDLANDS にて、テニス中心の学校生活を送っています。この大学、学生数2,000人足らずの小さな学校ですが、テニスコート(ハードコート)10面を持ち、そのすばらしい環境(雲ひとつない真青な大空に、新鮮な空気そして学校の周りをオレンジ畑が取りまき、遠くには山々がながめられるといったのどかな田園地帯)と共にテニスにはもってこいの所です。この学校、テニスにおいては日本では余り知られていませんが、アメリカ全国大会で過去7回そして一昨年、昨年と連続優勝している大学です。

2月から5月が学生テニスシーズン

こちらの学生テニスシーズンは、2月から5月頃までで日本と比較したら短かすぎるように感じられますが、この間綿密なスケジュールの下で実に充実したシーズンが送られます。4ヶ月間で消化された対抗戦の数は実に36試合。対抗戦の間に行なわれたトーナメントも入れれば3日に1日は試合という感じです。そして、これ程多くの試合が行なわれたにもかかわらず、私を含めてチーム共々1試合とていい加減な試合をしたという記憶はありません。一戦一戦真剣にプレーしそしてこれらすべての試合を消化したわけです。しごく当り前の事かも知れませんが、これについては後で述べたいと思います。“短い中でも集中的”といういかにもアメリカ的なシステムだと思われました。

2度のシード破り “絶好調のダブルス”

こちらでの成績はと言いますと一つ一つ書くことはできませんが、シーズンの

総決算ともいべきNAIA DISTRICTトーナメント(NAIAカリフォルニアトーナメント)においてシングルスベスト32(第4シードに6-3、6-4で敗れた)、ダブルスは準々決勝で第1シードを6-4、3-6、6-1で破りついで準決勝でも第4シードを6-1、6-2で破りあわやと思わせましたが決勝では同じ学校の№1 №3(第2シード)に6-2、6-1で敗れ準優勝でした。パワーテニス全盛のアメリカテニスの中にあって自分としては一応の成績を残せたと思っています。

この大会においての2度のシード破りはコーチも大分驚いたらしく“VERY GOOD”を連発していました。また、この2つの勝利は新聞でも取り上げられ、一度は一面で“絶好調のダブルス”等と書かれこっちは驚いてしまいました。いずれにせよ満足のゆくテニスシーズンを送ることができました。

さてこれからテニスシーズン中の体験をもとに、アメリカのテニス部についていろんな面から書いてゆきたいと思えます。

練習は“量より質”を重視

練習は月曜から金曜まで5日間、毎日2時から5時半頃までが一応の原則となっています。しかし、皆1時半頃にはコートに来てウォーミングアップを行ないつつ練習に備えています。シーズン中(2月~5月)は試合中心のスケジュールとなっていたので、こういった練習日はさほど多くはありませんでした。一応練習時間は決まっていますが、コーチの方針は“量より質”であってその内容を非常に重要視しています。故に、自分が充分内容のある練習をしたと思えば、たと



コーチのJim Verdieck氏と共に

え2時間程度であれ、さっさとやめて帰ってしまっても、一向に差し支えありません。またコーチも、各人の自主性を認めて、先に帰っても何も言いません。

反面、こういった雰囲気の中でも、今思い返すと皆よく練習していたように思えます。自分に甘えようと思えばいつでも甘えることもできる環境にありながらも、それに甘んじることなく努力しているその姿は、当り前の事とはいえ、なかなか立派だと思いました。

“試合”に重点をおいた練習

練習方法は“試合”に重点を置き実戦を積みながら技術の向上をはかるといやり方です。(基礎練習は9月～12月の間にずる)しかもその背後にはいつもコーチがいて、試合で悪かった点をすぐコーチが指摘し、試合後レッスンをすることによってその悪い箇所を直す、そして今度は自分で悪かった所を練習し(試合の合間の練習日)また試合に臨むといった、まったく理想的な形が取られていると思いました。それに加え、2日に一度は定期的にコーチよりレッスンを受けることができ、(自分の習いたいことをコーチに言いそれをやる)技術向上の面ではまさに至れり尽くせりです。また選手自身の自覚でコーチが補えない体力作り等については、皆自主的に行なっているということにも感心させられます。ランニングはもとより、なわとびやサーキットトレーニングと私もおそまきながらジムに通い始め(ヒイヒイ言いながら)、バーベル等を使ったトレーニングを行なっています。

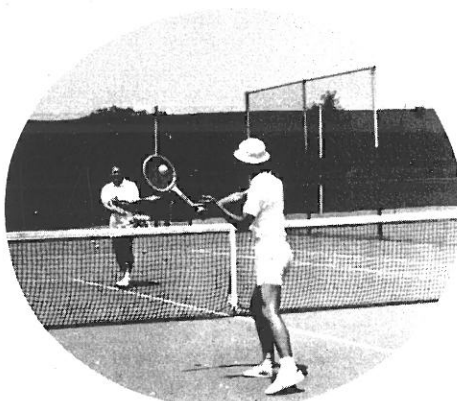
わがコーチ、バーディック氏

練習に関しては、コーチと選手の歯車がかっちりとかみ合って理想的な方向へ動いています。まったく、日本に比べたら羨ましい限りですが、その裏にあるコーチおよび選手の努力といったものが見逃すことはできません。

さて、わがコーチ Mr. Jim Verdick ですが、コーチ歴32年!という長いキャリアを持ったプロコーチです。このコーチ、ハードコートにおけるフォームについては、絶対的な持論(理論)を持っていてその理論の下に、いろいろ選手にアドバ

イスしています。また、テニスにかかる情熱には、なみなならぬものが感じられ、その情熱がまた選手を引張っているようにも思えます。

多くの学校の多くのコーチを見てきましたが、どのコーチもみな同じで、コーチと選手というものは、まったく一体化して、コーチはチームの雰囲気の中によく溶け込んでいますし、またそうなるよう努力もしています。アメリカのテニス部にとって、コーチと選手は、切っても切れない関係にあると思います。



試合前、コーチよりボレーのレッスン。
打点がかなり前になっている……

クレーコートからハードコートへ

クレーコートテニスからハードコートテニスへと180度の転換を強いられた私なので、実に多くのアドバイスを受けました。

一番とまどいを覚えたアドバイスは、サービス、ストローク、ボレー、すべて打点は体の前だということでした。特にボレーにおいては、その傾向が強く、体の横でボールをとらえようものなら、すぐさまコーチより“Too Late!”と注意され、大分フォームがかわってしまいました。

また、クレーコートに比べてバウンドが低いので、下からのスイングをかなり強調され、直されました。

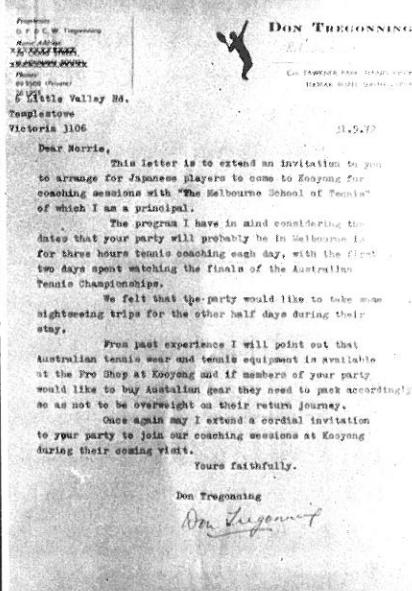
「欠点を直す方法」をアドバイス

その他、細々としたことで、いろいろとアドバイスを受けましたが、それと共に感じたことは、良いコーチは、(もちろんバーディック氏もそうであるように)悪い所を指摘すると共に、その悪い所を直す方法を実によく心得ているというこ

オーストラリアン テニススクール

カンタス航空後援 *47年度プラン*

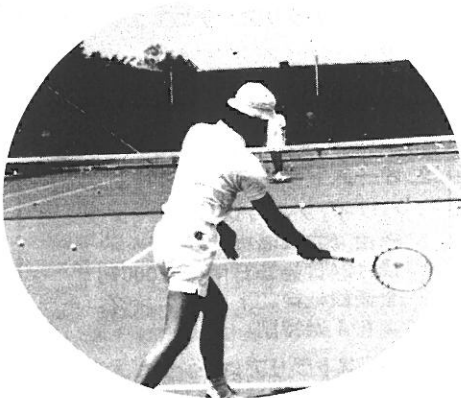
1. オーストラリアンテニススクール
サマーコース(学生対象、一般も可)
8月7日～25日ウィークデー15日間
A組9時 B組10時半開始
費用11,000円4校で260名募集
2. オーストラリアテニス特訓の旅
ハワイ、フィージ、ニュージーランド
経由(指導者向)
12月24日発35日間485,000円
全豪観戦後、トレゴニングコーチ
より4週特訓
3. オーストラリアローンテニスの旅
ハワイ、フィージ、ニュージーランド
経由(一般向)
12月24日発12日間388,000円
全豪観戦後、トレゴニングコーチ
よりローンコートでテニスレッスン



オーストラリアンテニススクール事務所
西宮市高松町9番18号阪急西宮北口駅前南
電話0798-66-1619

とです。今まで日本でも、幾度となくいろいろなアドバイスを受けたが、それらはいずれも、“どこが悪い、ここが悪い”といったアドバイスばかりで、その悪い所を“具体的にどういふ方法で直せ”とまでいったアドバイスは、あまり受けていないような気がします。

肝心なのは、悪い所を指摘する段階にとどまらず、その悪い所をいかに直すかというその方法を教えるところまでのアドバイスではないでしょうか。ここまで言えるコーチが、日本ではまだまだ少ないのではないのでしょうか。



試合の前にコーチよりレッスン。

最近日本でも、テニスチームとともにコーチの存在が重要視されるようになってきて、そのことはすばらしいことと思えますが、ただ、たんに欠点を指摘するだけのコーチでは、いくらコーチとはいえ、少々物足りないような気がするのですが……。欠点をいかにして直すかというその方法まで、しっかりと把握しているコーチが、真のコーチだと思います。

将来、日本のテニス界にとって、絶対にコーチ（真の意味での）は必要です。そのためには、（先のことも知れませんが）すぐれたコーチを造り出すためのコーチも必要となってくるのではないのでしょうか。

また、もう一つこちらのコーチの良いと思われる点は、（それが当たり前なのかも知れませんが）そのプレーヤーの長所を実にうまく探し出し、自信を与え、それを伸ばすよう努力していることです。欠点を直すよう努めていることも確かですが、それ以上に長所を伸ばすよう心がけているのです。

やや話が横道にそれてしまいましたが、

要は真の良いコーチを1日も早く、より多く作り、そのコーチを、高校、大学およびテニスクラブで迎え入れることです。そして、その良いコーチのもとで、より良いアドバイスを受け、技術の向上をはかることが、将来の日本のテニス界にとって、非常に大切なことと思われるのです。

テニス部も実力主義社会

次に、一緒にプレーした仲間達についても書いておきたいと思えます。最初に驚かされたことは、コートから離れた時とコートに立っている時が、あまりにも違うということです。

普段は人の良いほがらかな奴でも、いったんコートに立ち、練習なり試合が始まると、その態度はもとより、目付までがまったく違ってしまいます。これには、当初かなりのとまどいを感じましたが、時が経つにつれて、この謎は解けてきました。それは、テニスチーム(部)そのものの機構が、アメリカ実力主義社会のミニチュア版みたいなもので、この結果、勝負に対しては各人非常に厳しい態度でのぞんでいるのです。たとえば、練習試合一つにしても、その結果が非常に重要視され、やがてその結果によりチーム内のランクも決まり、上位者にはユニフォームやジャケットそしてシャツ等が与えられてゆきます。敗者にはなんにも与えられません。ユニフォームやジャケットがもらえないのはもちろんのこと、時には試合にすら出させてくれません。

要するに、勝負がかかったら、何がなんでも勝つのが一番で、勝ったか負けたかというその結果がもっとも問題にされ、重要なことなのです。もちろん、その試合内容、またそこにいたるまでの過程といったものを、まったく無視しているわけではないのですが、むしろ、勝つにいたるまでの努力とかそういうものは、当然のことといった感じで受け止められています。

また、2週間に1回ほど、チャレンジ・マッチが行なわれます。これは、下位のランクの者が上位の者に挑戦する試合です。この試合の結果、下位の者が勝てばランクは上り、負ければそのまま、そして今度は自分より下の者から挑戦を受

けなければならないのです。このようなシステムがあるので、いつまでも現在の地位に甘んじることはできませんし、うかうかとはしてられません。ですから、当然平生の練習でも、これらの試合に備えるべく、がんばっているわけです。

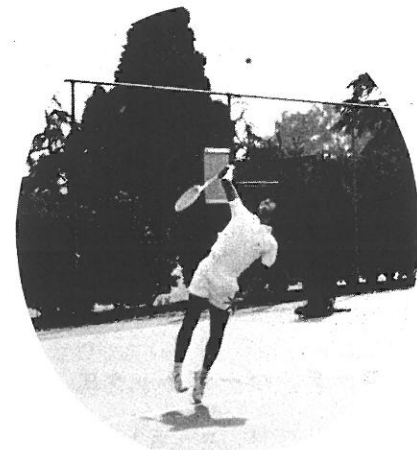
実力をためすチャンスは、いくらでも用意されているのです……。

上級生だろうがなんだろうが、また前年度の成績が良からうがなんであれ、そういうものは一切関係なく、現時点においての実力が一番重要であり、この時実力のないものは、どんどん落ちてゆくのです。まったくの実力主義です。

“資格”本位の日本学生テニス界にとっては、ちょっと考えさせられることでもあるようです……。

これらに加えて、テニスチーム（上位6人）としてプレーし、対抗試合等の成績が良いと、学業面でも多少の援護があります。

こうした数々の背景から、自然に選手の間からは、勝負（文字通り勝ち負け）に対する厳しい姿勢がでてきて、またそれが養われて、コートの上で人がまったく変るほどの真剣味が出てくるのだと思います。



Whittler(ニクソン大統領の母校)との対抗戦にて。

テニスを離れば、個人個人の生活

一方テニスを離れると、皆、個人をすごく大切に生活を送っているように思えました。日本のように、クラブの者達だけでいつも行動している等という姿は、ほとんど見かけられず、テニスを離れたらまったくの個人同士、週末ごとにパーティーへ行く者、デートを楽しんでいる者、また時にはマリファナ、と自由

で、テニスに束縛されない時間をおおいに楽しんでいるようです。

しかし、こういった反面、日本のあの“部におけるすばらしいつき合い”がなく、上級生、下級生の区別がまったくないということ等に、ちょっと味気無さを感じました。

人間的な面で、こちらの部を見たとき、私としては何か物足りなさが強く感じられます。こういった面では、日本の部の方が、はるかに意義があり、おもしろいようにも思います。

要するに、こちらの部員達には、部のために自分を犠牲にしてまでも、といった姿、またそういう雰囲気はあまり見受けられず、自分を一番大事にし（利己主義とはまた違うということを誤解無きよう！）、その上に部というものがあるというように考えているようです。

論じるよりも、まず行動しよう

テニスに関する施設、コーチおよびその他もろもろの面でも、その環境においては、確かにこちらの方が、より恵まれていると言えましょう（技術向上の面から見て）。しかし、コーチ、選手共々その与えられたよい環境に甘えることなく、各人しっかりした自覚を持ち、常に前進的な方向でテニスに挑み努力しているということも、見逃しがたい事実です。

庭球協会および情熱あるテニスマンの力によって、日本のレベルの向上のための環境造りに対する惜しみない努力を期待しますが、それと同時に、一部のプレーヤーにとどまらず、より多くのテニスプレーヤー（我々自身も含めて）が、これにこたえるべく、テニスに対するしっかりした自覚を持ち、自主的な努力を常日頃行なうことが必要なのではないでしょうか。

いつまでも、周囲が動くのを待ち、これから将来日本のテニスのためにどうしようこうしようとするだけの段階からは早く卒業し、具体的な行動を起こすべく努力するのが、今一番大事なことかとも思われます。

何をしようかということを論じる前に、まず行動を起こすことが、今のテニス界に必要ではないかと感ぜずにはいられません。

CYANAMID

“TITAN 500
DIAMETER
CONTROLLED
GUT

FOR
TENNIS
BADMINTON
SQUASH



強靱な弾力性と耐久性から華麗なプレイが生まれる
アメリカ・オーストラリアのプロ選手が絶賛！

一流品にして廉価

製造元 **CYANAMID AUSTRALIA PTY. LTD.**

Crows Nest, N.S.W., AUSTRALIA

総輸入元 株式会社 アイコン

東京都港区芝西久保桜川町23 昭和ビル

TEL591-0712

販売元 茶谷産業株式会社

東京都台東区西浅草1の1の9

TEL844-6171

全国一流のプロショップにてお買い求め下さい。



Telephoning in English

席にいるか確認致します。
どちら様でいらっしゃいますか？
誰とお話になりたいとおっしゃいましたか？
少々お待ち下さいませ。
(〇〇に) お繋ぎ致します。
お待たせして申し訳ございません。
〇〇はあいにく出ておりますが。
〇〇はあいにく他の電話に出ておりますが。
申し訳ございません。
〇〇はつい先程出たばかりです。
あいにく今週は出張でおりません。
〇〇はあいにく現在会議中です。恐らく長くかからないと思いますが。
〇〇はあいにく次の日曜日まで休暇となっておりますが。
後程お電話かけさせましょうか？
伝言をお伝え致しますでしょうか？
確認のため復唱させていただきます。
遅くとも明日には 〇〇よりご連絡さしあげます。
お電話有難うございました。
(間違い電話に対して) 何番におかけですか？
おかけ間違いかと存じます。

電話対応表 (日英No.10)

I'll see if he's / she's in.
May I ask who's calling, please?
I'm sorry, but could you repeat the name of the person with whom you wish to speak ?
Hold the line, please.
I'll put you through (to Mr/Ms 〇〇).
I'm sorry to have kept you waiting.
I'm afraid 〇〇 isn't in at the moment.
I'm afraid 〇〇 is on another line right now.
I'm sorry, 〇〇 just left.
I'm afraid 〇〇 is out of town this week.
I'm afraid 〇〇 is in a meeting, however, I think the meeting will probably be over soon.
I'm afraid 〇〇 is on vacation through next Sunday.
Shall I ask 〇〇 to call you later?
Can I give 〇〇 a message?
Let me repeat it to confirm.
You'll be hearing from Mr/Mrs 〇〇 by tomorrow at the latest.
Thank you for calling. Goodbye.
May I ask what number you are calling, please?
I'm sorry, but I think you have the wrong number.

世界に広がるファーストクラスのサービスとネットワークを

世界100カ国ネットワーク
(インターネット・翻訳・リサーチ・マーケティング)

☎ 0120-40-90-50

J-E 010 Japan